

# 北海道クラブユース選手権大会(U-15)

2014年6月28, 29日, 7月5, 6, 12, 13, 19, 20日

会場：夕張平和運動公園

【報告者】 HFAテクニカルスタディグループ

優勝：SSSジュニアユース

準優勝：コンサドーレ札幌

3位：プログレッシブ十勝FC

コンサドーレ旭川



## 個と関わり～ねらいをもったプレーと判断力の向上～

北海道クラブユース連盟に加盟する51チームがこの大会に臨んだ。今回は、7日間にわたる戦いのうち決勝での闘いのゲーム分析を通して、北海道の個の育成について考察した。

### 1. 大会の概要

北海道クラブユース連盟に加盟する51チームがトーナメントを闘う。試合時間は80分(40分ハーフ)。1日1試合で4週間かけて行う。

今大会で優勝および準優勝したチームはアディダスカップへ、準決勝敗退2チーム及び準々決勝敗退4チームの内2チーム(代表決定戦勝者チーム)は、東日本インターシティーカップへの出場する。

### 2. ゲームの傾向

#### (1) 決勝戦のデータ

ボールポゼッションの回数(4本以上連続してパスが通った回数)について、1試合を通した両チームの合計は33回(前半19、後半14)、回数の多いチームは18回であった。

シュートの本数は合計18本で、得点は1であった。

ミスパスの軌跡を解析すると、ハーフウェイラインをまたいだミドルパス(30m前後)を奪われる回数が圧倒的に多かった。また、中盤では幅広い地域を使って攻撃していることが読み取れるが、バイタルエリア付近へ向かうパスは、縦もしくは縦に近い斜め方向のパスが多く、ペナルティエリアの縦のラインとタッチラインで囲まれたエリアからのパス(クロス)は数本しか無かった。

#### (2) 試合展開

開始1分での得点が決勝点となった。その後も活動性の差がボール支配率の差となるような試合展開となった。守備への切り替えの速さも主導権争いに大きく影響を与えた。

## REGULATION



### スケジュール

6/28・29:1回戦 7/5:2回戦

7/6:3回戦 7/12:4回戦 7/13:5回戦

7/19:準決勝 7/20:決勝

試合時間：80分(40-10-40)

### 3. 個の分析

#### (1) 11人による守備の意識

3ラインの形成や前線からの守備等、チームとしての守備の戦術が確立されている印象を受けた。どの場所に追い込み、どこでボールを奪うのかの意識が出来る選手が多く見られた。守備ラインの距離感の修正とオフ時に個々のポジションの取り方の精度を高めると、さらに1STディフェンダーの質が高まり、チームとして良い守備が出来ると考えられる。

#### (2) トランジション

切り換えの速さが試合の勝敗を決定づけるという選手の意識が当然のようにあった。

両チームとも攻撃から守備の切り換えが速く、習慣化されている印象を受けた。しかしボールに対するプレッシャーは見られたものの、2NDディフェンダーのポジションの取り方に精度を欠く場面が多く見られた。個々の選手が、次に展開されるプレーの予測、人とスペースの意識を持ち続けることがさらに求められると考える。

#### (3) 多彩な攻撃

バイタル中央へくさびを入れ相手の守備を崩そうとする攻撃や、サイ

ドの深い位置まで入り込む攻撃、アーリークロス、ドリブルでの突破等の攻撃が見られた。選手個々の判断により攻撃の選択を持ち続け得点を取ろうとするプレーが随所に見られた。

今後の課題としては、自チームの戦術を貫くことに加え、相手の状況に応じてプレーを変えられることだろう。全国の強豪と闘う上で、対応力の向上にぜひトライしてもらいたい。

#### (4) ゲームの流れを読む力

相手が今どのような攻撃・守備をしているのかを分析し、自分たちのチームはどうすべきなのかを感じ取ることが出来る選手が望まれる。また、時間帯を考えてリスクを回避すべきか、攻撃的に行くべきかを判断することも必要であろう。どの時間帯でも単調な攻撃を何度となく繰り返したり、決まり切ったプレーをただ単にやり続けるだけの良いプレーとはいえない。ゲーム全体の状況判断が出来る選手が数多く見られることに期待したい。その中で、コミュニケーションをとり続け、ゲーム内で修正し改善するための努力が出来る選手が数多く必要であろう。

#### (5) プレッシャーの中での判断力 前線からの守備に対してどの様に



#### 「主導権を握ることと状況判断」

コンサドーレ札幌U-15 関 浩二

(試合前) 技術的に決して高くはない選手たちだが、守備の連動をしっかりと粘り強く守っていきたい。また、これまでの戦いの中で、奪ったボールをすぐ失うことによってピンチを作る場面があったので、その部分に注意をしていきたい。攻撃では主導権を握り、相手の状況を判断した攻撃を心がけたい。

(試合後) ゲームの入り方が良くなかった。守備ではくさびに対する守りと逆サイドへの展開を阻止したかったがうまくいかず、左サイドの⑩に良いパスが入ってしまった。



攻撃を組み立てるのか、ボールを失わないだけではなくゴールへ近づき得点を取るために何をすべきかの判断が出来ていない選手が多く見られた（判断の伴わないロングボールなど）。味方の選手だけを意識するのではなく、相手の変化を常に見て、自分が今どのようなプレーを選択すべきかの判断が出来る選手が望まれる。

#### (6)フィニッシュの精度

決勝においては両チームとも決定機が何度かあったが、得点は両チーム合わせて1点であった。劣勢の中でもシュートを決める技術や確実に得点を取らなければならない場面でのミスは北海道の課題でもある。

### 4. GK

#### (1)ブレイクアウェイ

相手選手からのDFライン裏へのパスに対し、ペナルティエリア外へ飛び出し、クリアまたは味方へのパスで対応し、シュートを未然に防ぐ意識を持ってプレーをしていた。

ただ、課題としてはバイタルエリアでのパスやドリブルにより、DFラインを突破された場面でインターセプト及びシュートコースの限定をする狙いがなかったため、事前に相手と味方の状況をもっと把握し、状

況に応じてより積極的なポジションをとり、積極的かつ力強くブレイクアウェイの局面に対応することが必要である。

#### (2)シュートストップ

全体のシュート本数及び枠内シュートがわずかであったので、具体的なプレー分析はできなかった。ただ、シュートを受ける準備として左右のポジションニングはボールとゴールを結んだ線上を意識してとることができていたので、今後、より多くシュートを防ぐためにも前後のポジションを、頭上のシュートに対するケアをしながら出来るだけ前に出てシュートコースを限定することが必要であると感じた。

#### (3)クロス

自陣深くまで突破されクロスがあげられた場面で、GKが飛び出してクリアし、未然にピンチを防ぐ場面がみられた。課題としてはゴール前の守備範囲をより広くするためにもクロスが上がるまえに相手や味方の状況を把握し、味方にその状況を的確に伝え、上がったクロスに対しては「味方にプレーさせるのか、自分でプレーするのか」を素早く味方に伝えることが必要である。

#### 「ねらいをもったプレー」

sssジュニアユース 岩越 英治

（試合前）チャンピオンを決める戦いであるが、普段通りのゲームを心がけたい。今年は良い選手がそろっており、攻撃的なチームである。相手ではなく自分たちのサッカーが出来るようにしたい。

（試合後）今日は選手たちが積極的にプレーすることが出来た。攻撃では、くさびのパスを意識してプレーできたが、フィニッシュの精度をあげなければならないと感じた。相手チームは選手がそろっていない状況で、自分たちも満足出来るプレー内容ではなかったが、最後まで狙いを持ってプレーできた。このままでは全国大会で通用しないかもしれないが、今日のようなプレーを続けていくことで、上を目指してがんばりたい。



#### (4)ディストリビューション

試合全体を通して、ショートパスを多用し、素早くかつ確実に味方に繋げようとする場面が多くみられた。

配球全体の成功率としては50%を超しており、ロングフィードを多用した昨年の分析結果（成功率30%）を上回る結果となったが、繋がれば攻撃に効果的に活用できるロングフィードのみの成功率が27%だったことを考えるとその正確性は昨年に引き続き、向上を必要とする。

#### 5. まとめ

どのチームも個の育成に対してねらいをもって取り組んでいることが伺えた。今後の課題はそれら個をさらに大きなものにしていくと同時に、刻々と変化する状況に応じて、個人戦術と関わりの質をより向上させることである。多くの選手が将来さまざまなステージで活躍できるよう、技術委員会としても貢献していきたいし、チームをサポートしていきたい。

最後に、このTSGレポート作成にあたりまして協力いただきました大会及びチーム関係者の方々に感謝申し上げます。お礼のことばといたします。

#### 主催者コメント

北海道クラブユースサッカー  
連盟 会長：加藤孝俊

（決勝戦について）今年のこの年代を代表する2チームが勝ち上がってきたので、楽しみな一戦である。ピッチコンディションが気になるところだが、熱い戦いを期待したい。

（今大会の意義について）北海道3種のリーグは毎年発展し、北海道カブスリーグはホーム&アウェイに移行した。リーグ化が浸透したことで、北海道クラブユースサッカー連盟加盟チームは、レベルの拮抗したリーグに年間を通して参戦できている。やり直しができるリーグ戦で、日々個人のスキルとチーム力のアップのできる環境が維持できている。しかし、この大会は、北海道クラブユースサッカー連盟加盟全クラブが、トーナメント戦で優勝を目指し、リーグ戦とは異なる一発勝負に挑む大会である。今後も北海道クラブユースサッカー連盟唯一の公式大会として、選手にリスペクトされる大会であり続けたいと考えている。



PLAYERS  
FIRST



#### TSGメンバー

- 小林 俊也  
(チーフ・恵庭南高校)
- 仲 孝平  
(GK・文教大明清高・サンク栗山)
- 星 和彦  
(映像解析・恵み野SS)
- 千島 広丸  
(ゲーム分析・室蘭SC)

- 柴田 晃宏  
(データ解析・道北ブロックトレセン)
- 中町 正樹  
(ゲーム解析・R.シュベルブ釧路)
- 門間 貴志  
(データ解析・北照高校)

#### ベスト16チーム

- SSSジュニアユース (札幌)
- 苫小牧ELSOLE-FC (道南)
- CASCABEL SAPPORO (札幌)
- DOHTO Jrユース (道央・千歳)

- クラブフィールズ (札幌)
- FC DENOVA (札幌)
- フロンティアトルナーレ(道南・函館)
- コンサドーレ旭川 (道北)
- アンフィニMAKI (札幌)
- アプリーレ札幌 (札幌)
- 札幌ジュニアFCユース (札幌)
- スプレッドイーグルFC函館 (道南)
- プログレッシブ十勝FC (道東)
- LIV FC (札幌)
- 泊SC (道央)
- コンサドーレ札幌 (札幌)